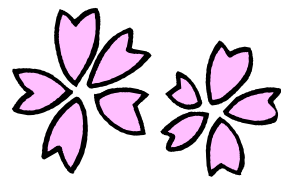


高遠町 地域協議会だより



平成26年11月発行 第30号

地域協議会だより第30号では、高遠町地域自治区長の退任・就任あいさつと平成26年度第1回から第3回までの協議結果をお知らせします。

3期6年の任期を終え伊藤俊規前高遠町地域自治区長が退任され、5月23日より新たに廣瀬源司高遠町地域自治区長が就任しました。

退任あいさつ

伊藤 俊規



在任中の皆様からの温かいご指導ご協力に心から感謝申し上げます。

「古川に水絶えず」歴史のある町は、決して滅びることはない。という意旨です。北原三平元町長さんから教えていただきました。

これからも、みんなで良い町をつくっていききたいと思えます。

就任あいさつ

廣瀬 源司



高遠町地域自治区長を務めさせていただくことになりました。

皆さんが住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、地域協議会のご支援とご協

力をいただき微力ですが尽くして参ります。皆さまのご協力をお願いいたします。

第一回地域協議会

平成26年5月2日(金) 高遠町総合支所

■報告事項

●平成二十六年年度予算 高遠町関係主要事業について

平成26年度の高遠町地域関連予算の概要について、総合支所各課長より報告がありました。主な事業として、空き家バンク活用促進、防災無線のデジタル化、地域おこし協力隊の活用、有害鳥獣対策、保育園の再編整備、伊澤修二記念音楽祭、消防広域化等についての説明がありました。

●第1・第4保育園統合検討委員会の 結果報告について

高遠保健福祉課より、第1・第4保育園統合検討委員会の設置経過及び検討結果について報告がされました。

市では、園児数の減少及び園舎の老朽化等により保育園の整備計画を策定し、保育園の統廃合を進めています。高遠地区では、第4保育園の園舎が老朽化しており園児数も減少していることから、第1保育園へ統合する計画で、一昨年の協議会へ説明がされましたが、河南地区の保護者会から新設統合を希望する署名運動がされたので、事情に詳しい方で組織する検討委員会を設置し、統合について検討してきました。その結果、第1・第4保育園を統合することについて異論はないが、統合にあたっては、適地

に新設をしていただきたい。第1・第4保育園、旧第1保育園の園舎及び土地の処分について解決を希望するという意見がまとまり、4月16日に市長に結果を提出したということでした。

■協議事項

●伊那市スポーツ推進審議会 委員の推薦について

伊那市教育委員会から地域協議会長あてに、伊那市スポーツ推進審議会委員1名の推薦依頼がありました。スポーツ推進審議会とは、教育委員会の諮問に応じてスポーツの推進に関する事項を調査審議し、教育委員会に建議していく組織で、この委員に地域協議会から何方かを推薦して欲しいと、事務局より説明がありました。

地域協議会会長から、小松地域協議会副会長を推薦という意見があり、委員全員の賛成により、スポーツ推進審議会委員に小松地域協議会副会長が推薦されました。



委員からの提案

◆三義から入笠山への市道改良について

小豆坂を越え、三義地区から芝平峠を経て入笠まで続く道路は、かつては国鉄バスの定期路線が運行されていましたが、現在は、藤沢から千代田湖を経由する道路が主流になっています。三義地区からの道路がありながら活用されない事は、住民としては、やりきれないものがあります。現在、国交省が砂防ダムを建設しており、道路の付け替え工事を行っているので、これを機会に、芝平峠までの道路改良、舗装工事を実施して、三義地区の振興を図って欲しいと提案されました。

現在、県道芝平高遠線の起点から芝平峠まで、未舗装ではありますが通行に支障のない幅員(約3m)は確保されており、その都度必要な補修は行っています。しかし、幅員の狭い部分もあるため、交通量の増加により交通障害等の発生も懸念されます。砂防ダムの工事終了に併せ、今後の改良や舗装工事の実施の可能性について、検討していきたいと思えます。なお、千代田湖枯木線は、全線が舗装されているため、入笠への主なルートとして案内を行っていませんと説明がありました。

第二回地域協議会

平成26年5月27日(火) 高遠町総合支所

■報告事項

●平成二十六年度さくら祭りの報告について

高遠産業振興課より、今年のおさくら祭りの結果について報告がありました。

4月1日に公園開きを行い、8日に開花、25日に散

り終わりとなりました。開花から散り終わりまでの有料期間は17日間で、有料入園者及び市民入園者を合わせて約25万人の方が来園されました。この間、篠笛の演奏や江戸かつぱれの披露、さくら茶サービス等のイベントを実施し、高遠閣では、南アルプス国立公園指定50周年記念事業として、津野祐次先生の写真展や、猪苗代町振興公社の協力により、高遠そばのPRイベントを行いました。また、駐車場状況や交通渋滞の緩和施策として、「高遠さくらナビ すいすいイーナ」というスマートフォン向けのアプリを開発し、随時配信を行いました。今後も、スムーズに高遠城址公園へ来ていただけるように利用していきたいと説明がありました。



●伊那市地域自治区制度審議会委員の推薦について

伊那市長から地域自治区長あてに、地域自治区制度審議会委員1名の推薦依頼が来ています。当協議会では、昨年3月に地域自治区のあり方、総合支所のあり方について建議書を提出しています。それを受けて、伊那市地域自治区制度審議会を設置して、検討していく事になりました。その審議会委員を、伊藤地域

協議会会長にお願いしたいと事務局より提案がありました。

伊藤地域協議会会長及び委員全員の了承を得ることが出来ました。審議会の内容は、その都度、地域協議会会長から報告を行うことになりました。

第三回地域協議会

平成26年7月2日(水) 高遠町総合支所

■報告事項

●避難所等の指定に関する説明について

総務部危機管理課より、指定緊急避難場所及び避難所の指定について説明がありました。

平成25年に国の災害対策基本法が改正された事に伴い、現在指定されている施設を、災害の事象ごとに対応できる施設かどうかを確認して、新たに定めました。高遠地区で一番考慮しなければならない災害は土砂災害で、長藤・三義・藤沢地区のほとんどの公共施設が土砂災害防止法のエリアに入っているため、高遠の中心エリアに避難していただく事になります。今回の見直しを反映した新しい防災マップを、平成26年度内に作成し全戸配布する予定で整備をしているので、災害の危険が迫った時に、何処に避難すればいいかわかる様に周知しますという事でした。

委員からは、道路が寸断される可能性が高いので、最寄りの施設を指定した方がいいのではないか、防災無線が聞き取りにくい、民間の応援協定業者についての意見・質問が出されました。これに対し、十分な避難時間が取れるように、早めに避難準備情報を流したい、応援協定については、生活に必要な物資やライフライン等、組合を組織している団体と応援協定を結

び、市内全域をカバーできるようにしていますと
いうことでした。



●小原防災倉庫について

総務部危機管理課より、小原防災倉庫の設置につ
いて説明がありました。

小原の農業集落排水処理施設は、平成2年に農林
水産省の補助金等を活用して整備し、小原地域の汚
水処理を行ってきましたが、市の下水道事業経営健全
化を図るために、高遠浄化センターで処理すること
により、維持管理費の削減を図ることになりました。施
設の廃止にあたり、他の目的へ転用を図れば補助金等
の返還をしなくてよいという農水省の意向により、小
原地区の要望を聞く中で、防災倉庫としての有効利
用が最も良いという結果になりました。この防災倉庫
は、高遠町・長谷地区の基幹防災倉庫として位置付け
災害時の資機材を整備し、受援物資の受入れや配布
する施設とします。また、地下に防火水槽を整備し、
地域の防火対策の部分としても位置付け、来年度工
事を行っていきますとこのことでした。

■協議事項

●伊那市地域自治区制度審議会について

第1回伊那市地域自治区制度審議会について、地域協
議会会長より報告がありました。

6月17日に市長から15名の委員に委嘱書が交付され
ました。委員の中には、伊那市商工会より、森本会長が
選出されていきました。高遠町・長谷の地域自治区は、設
置期限が平成28年3月31日となっているので、地域協
議会の維持・存続、総合支所のあり方を建議しています。
旧伊那市の7地区は、自治法に基づく自治区であり、合
併特例法の自治区とは相違点があり、協議会の位置付
けについても温度差があります。11月までに地域自治区
の設置について審議を重ね、12月には市長に答申する
というスケジュールになっています。その都度、皆さんに審議
会の内容を報告させていただくということでした。

委員からは、地域協議会の設置方法については、地区の
単位に違いがある事も主張して欲しい、旧伊那市の区長
会のような、結束力のある組織を作る必要があるのでは
ないかという意見が出されました。これに対し、区長会
と連携しながら確固たる高遠の在り方を構築していき
たいということでした。



委員コラム



6番委員
いまは はじめ
今枝 一

高遠中学校PTA

名古屋の出身です。進学を機に信州の住人となり
ました。その後、縁あり高遠藤沢の地にお世話になり
いつの間にか20年程になります。現在は、子育ての真
つ最中であり、この高遠の穏やかな環境で子ども達を
育めることに感謝しています。

健全な地域と言える条件の一つに、安心して子育て
を出来る環境であることは欠かせないでしょう。つまり
地域を次世代に伝え受け継がす場が維持できている
かということ。周知されていることですが、日本の
多くの地方で、人口減少に伴う後継者不足が大きな
問題となっています。一方で、終の住処を地方に求め
る移住希望者が、多様な世代に少なからず存在する
ことも今は知られています。彼らにどう発信し定住化
に導くのか、ここ伊那市を含め、多くの地域で取り組
みは始まっています。地方を目指す人々にとって、三
千メートル級の山々を仰ぎ見られる信州は、間違いな
く憧れの地の一つです。その中でも、南と中央の両アル
プスに挟まれた伊那谷、その麓にある高遠の地に魅力
が無いとは思えません。新住民や次世代の受け皿とし
て、従来では気付かれていない地の利を活かす産業や
暮らしの可能性が、まだまだこの地には潜んでいるよ
うな気がします。もしかしたら、それは既存の受益体

系とは異なる可能性もありますが、そういった視点も添えられれば、少しは私もお役にたてるのかなと感じています。



7番委員
蘭 多美子

高遠町女性団体連絡協議会

合併特例法で設置された「高遠町地域自治区」も二〇一六年で期限が切れてしまうということは周知の事ですが、今後高遠町はどのようになるかと、あちらこちらで囁かれているのを近頃よく耳にします。

地域自治区が無くなれば、総合支所も縮小され、職員も最小限度で、主なことは本庁の市役所まで行かなければならなくなるだろうか？急を要する問題が起った時、行政に頼ることが出来なくなるのではないだろうか？...等々。

昨年は、「高遠町地域自治区及び高遠町総合支所のあり方」について、地域協議会でも研究を重ね、より良い方向になるように建議書を市長に提出しています。また、この6月には「地域自治区制度審議会」が発足し、今度は伊那市全体での広い視野に立つての考えて方向が決められるのではないかと思います。高遠と長谷は、地域自治区として存続してもらいたいと切望します。私達住民も、傍観者でなく関心を持つていなければならぬと思う。

高遠町を振り返ってみると、他の地域に比べ多くの史跡と偉人を輩出。私たちは、先人の残した偉業を受け継ぎ次世代へと継承していかなければならない責務があると思います。

毎年実施している「進徳館の日」、今年も高遠の中学校の発表がありました。どちらも力強いものを感じました。

昔から、進徳教育の方針は、「実際に役立つ学問」「実際にものの用に役立つ人材の育成」と聞いています。高遠の子ども達は、日々そのような方向に育っていると思います。

進徳館の五聖人像も、時代を超えて、何時もそこに学ぶ人々を守り育ててくれているように感じます。五聖人像の上の横断幕が古くなっていたので、平成13年に私達婦推協（長野県婦人教育推進協議会）高遠支部、会員30名が資金を出し合って、新しく作り寄贈しました。「高遠の学」を大切に思う気持ちからでした。

天下第一の桜も終わり、緑一色の六月。都会から来られたという七十歳代のご夫婦に会いました。「高遠は桜で有名ですが、緑の城址公園も素晴らしい。心が癒されます。」と言われた。折角来られたからと、バラ園を紹介しました。このように、高遠は歴史と偉人と、更に自然に恵まれ、多くの財産を持ち合わせています。住んでいて良かった町・高遠。次世代にも、安心して暮らせる町にしたい。

地域協議会委員として、女性の声を吸い上げ、よい町づくりに寄与できるように努力したいと思っております。



お知らせ

地域の身近な課題や問題点などが、どのように議論されているのか地域協議会を傍聴してみませんか。傍聴を希望される方、また地域協議会に対するご意見、ご質問等は協議会委員または高遠町総合支所総務課までご連絡ください。

高遠町地域協議会をはじめ、伊那市の地域協議会に関する情報は、伊那市ホームページ/市政情報/協働のまちづくり/地域協議会をご覧ください。

【<http://www.inacity.jp/>】

■編集発行 高遠町地域協議会事務局

（事務局 伊那市高遠町総合支所総務課内）

■電話 94-2551 ■FAX 94-3697

■Eメール t-sou@inacity.jp